ファンタスティック・ピアノ・コレクション 2010【初級編】

1.　ジッパ・ディー・ドゥー・ダー／R.ジルベル、A.ルーベル

SMF あり ★☆☆

1946 年のディズニー映画『南部の唄』主題歌で、アカデミー賞歌曲賞を受賞した名曲です。明るく弾むようなメロディーを味わいながら、ウキウキ、ワクワクした気分で演奏しましょう。[A]の右手は、楽譜に記されたアーティキュレーションを忠実に表現し、シンコペーションのリズムをしっかりと捉えてください。左手は軽いスタッカートで、4 小節目、8 小節目などに現れる“繋ぎ”のベースラインは、音の粒を揃えて丁寧に弾くと良いでしょう。[B]の右手メロディーの重音はやさしくレガートに。後半はいったん音量を落とした後、徐々に盛り上げながら[C]の *f* へ持っていきましょう。

2.　恋とはどんなものかしら～オペラ『フィガロの結婚』より／W.A.モーツァルト

SMF あり ★☆☆

モーツァルトのオペラ『フィガロの結婚』の中の有名なアリアです。冒頭の１～２小節目や 13～14 小節目などに出てくる四分音符は、スラーによるフレーズの区切りを意識し、１拍目と２拍目の頭に重心を置いてスラーを強調して弾いてみましょう。[B]からは、転調が続きます。[B]の終わりでの短調への変化など、表情の陰影を表現しましょう。[C]からは、直前の陰りのあるシーンとは対照的に、左手の快活なリズムに合わせて晴れやかな気持ちで生き生きと演奏しましょう。終わりの４小節前からの右手のフレーズは、２拍目の二分音符に少しアクセントを付けて、スラーを強調するとこの曲の愛らしさが表現できるでしょう。

3.　プロリンサイズ♪／森三中

SMF あり ★☆☆

ＴＶアニメ『あたしンち』主題歌です。エンディングでは、キャラクターたちがこの曲に合わせてシェイプアップ体操をしています。このユニークで、どこか微笑ましいアニメーションを思い浮かべながら弾いてみましょう。[A]の 3 小節目をはじめ、右手と左手を交互に打鍵するパターンは、まるで「指が体操している」ようなイメージです。ステップするかのように軽やかに、そして元気の良さが聴き手に伝わるように弾きましょう。中間部の[B]では一転、のびのびとした雰囲気に変わります。音をのばしている間にテンポが崩れていかないよう気をつけてください。[C]に入る手前の *mf* からまた徐々に気持ちを戻し、[C]は最後まで元気よく弾きましょう。

4.　ベンのテーマ／マイケル・ジャクソン

SMF あり ★☆☆

「ポップの帝王」マイケル・ジャクソンが若干 14 歳のときに映画『ベン』の主題歌として歌い、大ヒットしたバラードで、「友情」を主題とした優しく愛くるしいメロディーが持ち味です。イントロから[A]へのコントラストがきれいに出るよう、右手の強さを逆算して弾き始めの強さを決めると良いでしょう。メロディーは黒鍵を多く使うので、指くぐりの場所などよく運指を考えておくことも大切です。[B]はやや暗いトーンのメロディーですが、悲しくならずに、むしろ意志の強さを出すような気持ちでしっかり弾きましょう。右手と左手の対話となる[C]から終わりにかけては、余韻を味わうように再び優しく曲を締めます。

5.　心のアンテナ／中川翔子

SMF あり ★☆☆

2009 年の映画『劇場版ポケットモンスター』主題歌で、松本隆・細野晴臣という日本を代表する作詞・作曲家による作品です。のびのびとした大らかなメロディーの曲です。一曲をスムーズに弾き通すには、両手の指遣い、ポジション移動の箇所をあらかじめよく考えて、演奏時に戸惑わないようにしておくことが肝心です。キーは原曲と異なり、弾きやすい音域を考慮してあえて移調してあります。[B]や最後の 4 小節ではふっと音階が変わって曲の表情が変化します。黒鍵に注意するとともに、その表情のコントラストをていねいに表現することを心掛けると、曲の奥深さがよく出てくるでしょう。

6.　ヤッターマンの歌／山本正之

SMF あり ★★☆

TV アニメ『ヤッターマン』主題歌です。ここでは、1977 年当時のオリジナル・バージョンではなく、2008 年に放送されたリメイク版のオープニングテーマである「音屋吉右衛門」（世良公則＆野村義男によるユニット）の演奏をもとにアレンジしてあります。アコースティック・ギター中心のシンプルな編成に力強いヴォーカルが印象的なこの曲を、まずはしっかりと聴き込んでから演奏してみましょう。全体に歌詞の言葉のリズムを意識しながらメリハリのある演奏を心がけてください。付点のリズムは鋭くきっぱりと演奏し、スタッカートやアクセントなどのアーティキュレーションにも気を配りましょう。両手ともに力強いタッチで、熱い魂を込めて演奏すると原曲の雰囲気が出せるでしょう。

7.　ピタゴラスイッチ オープニングテーマ／栗コーダーカルテット

SMF あり ★★☆

様々な物事のしくみや考え方を子供向けに紹介するテレビ番組のテーマ曲です。リコーダー（たて笛）アンサンブルの素朴な音色と、跳ねるようなリズムに乗ったメロディーが特徴で、楽譜に書かれているアーティキュレーションによく注意して、かわいらしい雰囲気を出してみましょう。2/4 拍子に変わり両手ともお休みの所がありますが、ここはブレイクです。音楽の流れが止まってしまわないよう、拍をしっかり体で感じながら次の音につなげましょう。[C]からはメロディーが左手に移ります。右手は音量を控えめにして、メロディーをしっかり聴かせましょう。

8.　シンコペーテッド・クロック／L.アンダーソン

SMF あり ★★☆

タイトルの通り、本来は正確に時を刻むはずの時計が時に不規則に（「シンコペーション」して）動いてしまう、というコミカルな表情の曲です。出だしの四分音符、およびそれを引き継ぐミュージックデータのウッドブロックはもちろん時計の振り子の音を表しています。これに合わせて楽しくリズムに乗り、さらに曲の中でのスタッカート、レガートの部分をはっきり描き分けて表情の変化を出しましょう。八分音符はわずかにバウンス気味に取ってもよいですが、そのほかに三連符や付点音符がメロディーやバックに混在して現れるのがまさに「シンコペーテッド」の面白さで、これらを明確に弾き分けることもポイントとなるでしょう。

9.　ダンシング・クイーン／ABBA

SMF あり ★★☆

1970 年代に世界的に大ヒットした曲で、ABBA の代表曲の一つです。当時のディスコサウンドの雰囲気で軽快に弾きましょう。一貫したビートの中でも、ベースラインのリズムには様々なバリエーションが含まれています。スタッカートやテヌートの位置に注意するとともに、ミュージックデータのベースをよく聴いて、タイミングやアップ・ダウンのニュアンスを合わせましょう。[Intro.] 3 小節目のアクセントのついた高音のフィルイン、[B] 2 小節目の 16 分音符のフレーズ、さらに [C] 7～8 小節目のメロディーのエコーなど、主旋律以外の要素をしっかり区別して弾くことも重要です。

10.　キセキ／GReeeeN

SMF あり ★★☆

2008 年のテレビドラマ『ROOKIES』主題歌としてヒットした GReeeeN の代表曲のひとつです。イントロでは優しく流れるメロディーを丁寧に弾きましょう。[A]から歌の部分ですが、サビの [C]まで音域にあまり差がないため平坦な演奏になってしまいがちです。そこで、[B]からタッチの強さを変えたりビートの変化を明確に出したりして徐々に盛り上げ、[C]ではメロディーのみならず、左手のパワーコードもしっかり打鍵して迫力のある響きを作りましょう。[D]はラップ風に歌う部分です。シャープにバウンスさせてリズミカルに弾き、言葉としてのニュアンスを表現することでサビとはまた違った聴かせどころを演出しましょう。

11.　Tomorrow／Chara

SMF あり ★★☆

もとはブロードウェイミュージカル『アニー』のテーマソングですが、製薬会社の CM 曲となった Chara のカバーでもお馴染みです。[A]におけるフレーズの掛け合いは、ミュージカルの序曲での、オーケストラのさまざまな楽器による対話をイメージしたもので、ここでは好きな楽器を思い浮かべながら色彩豊かに弾くと効果的です。[B]冒頭で現れるマイナーコードはあまりセンチメンタルにしすぎず、次の盛り上がりに向けた橋渡しの役割と捉えましょう。リピート後の[B]～[D]は、クライマックスとなる [F]を見据えて、1 回目よりも音量の幅を出していきましょう。

12.　アマポーラ／J.ラカジェ

SMF あり ★★☆

スペイン出身の作曲家ホセ・ラカジェによる美しい作品で、アメリカ、ヨーロッパに限らず世界的に多くのアーティストに演奏されています。「アマポーラ」とは「ひなげしの花」のことです。[A]では、ミュージックデータのシンバルを頼りに大きく合わせ、たっぷりと歌いましょう。メインのテーマである [B]の 2 小節前から、やや速くなるテンポにしっかり乗るようにタイミングを整えます。ここではバックのハープの音をよく聴いて左手のハバネラのリズムを正確に弾きましょう。[D]からは転調とともに大きく盛り上がってきますが、勢いテンポが走らないように落ち着いて、特に十六分音符のフィルインを慎重に合わせることを意識しましょう。

13.　二人でお茶を／V.ユーマンス

SMF あり ★★☆

1924 年発表のミュージカル・ナンバーで、「いつか新しい家で、二人でお茶を飲もう」というロマンチックな歌。ここでは、オリジナルに近いヴァース（導入）～4 ビートの部分と、後年のトミー・ドーシー楽団のカバーによるチャチャチャ・バージョンのイメージ（[G]～[H]）をミックスしたアレンジです。ヴァース部分はミュージカルのせりふのような調子で、夢見るように、語りかけるイメージで演奏しましょう。[D]からは、スタッカートとスラーの区別に注意し、一つ一つのフレーズの単位を大切にしてください。チャチャチャの部分も同様に、スタッカート、スラーをきっちり弾き分けることでメロディーがくっきりと浮かび上がってくるでしょう。

14. スカボロー・フェア／イギリス民謡

SMF あり ★★☆

サイモン＆ガーファンクルのカバーでも有名ですが、もとは英国の伝承曲で、16〜17 世紀ごろにその原型が作られたと言われています。ここでのアレンジは、Gontiti によるギター・デュオのイメージを基にしています。ドリアン・モードと呼ばれる音階を使った、エスニックなメロディーやコード進行を味わいましょう。10 度を使った左手の広いアルペジオは、1 の指をすべらせる（F#→G 音など）、途中でポジションを移動する、指またぎを使うなど、各コードごとに、また手の大きさに応じてそれぞれ工夫しましょう。Bからは、メロディーと合いの手との対比にも注意が必要です。

15. COSMOS／アクアマリン

SMF あり ★★★

もとは２人組ユニット「アクアマリン」の歌で、合唱曲として親しまれています。ここでは、合唱曲の方をイメージしたアレンジになっています。「COSMOS（宇宙）」のように壮大に、そして表情豊かに演奏できると良いでしょう。Intro.はペダルを使って十分にレガートで、そして遠くまで音を響かせるようなイメージを持って弾いてみましょう。Aからは右手がところどころ２声に分かれますが、内声のラインにも耳を傾けながら、しかし、メロディーよりも前へ出ないよう、タッチのバランスにも気を配りましょう。左手は音の粒を揃え、豊かなハーモニーを作りだしてください。

16. My Best of My Life／Superfly

SMF あり ★★★

美しくも力強さを持ったロックバラードです。まずイントロではしっかり音を保って、ブレのないリズム感を作りましょう。Aからはメロディーの柔軟性や歌心が大切になりますが、ここでもテンポ、リズムの重厚さを失わないように安定した演奏を心掛けつつ、メロディーに幾分自由な表情をつけることで、生き生きとした表情が出るでしょう。Dからの左手の八分音符のきざみはあまり力を入れすぎずに横の流れの均一さを意識する方が、推進力、および次に向かって徐々に盛り上がる流れを作りやすくなります。全体を通じて、力強さを出しながらも強拍ばかりに力が入らないよう、常に八分のビートを意識するようにしてください。

17. 組曲「ルーマニア民俗舞曲」より／B.バルトーク

SMF あり ★★★

ハンガリーの作曲家バルトークは民俗音楽の研究家としても有名で、「ルーマニア民俗舞曲」は、彼自身が採集したルーマニアの民謡や舞曲をもとに作られました。ここでは、組曲より「ルーマニアのポルカ」と「速くて細かいステップの踊り」の２曲を抜粋してアレンジしてあります。拍子がめまぐるしく変わり、また独特なアクセントを伴った民俗舞曲らしいリズムを自分のものにして演奏することがポイントとなるでしょう。特にCからEに見られるような不規則な位置のテヌートやアクセント、*sf* などの表記をよく読み取ることが大切です。ただし、演奏時にはそうした細かい指示のひとつひとつにとらわれすぎないよう、勢いを失わずに演奏することを心がけましょう。

18. メモリー ～ミュージカル「キャッツ」より／A.L.ウェバー

SMF あり ★★★

数々のミュージカルで知られる作曲家アンドリュー・ロイド・ウェバーの代表曲のひとつです。老いた猫が、美しかった昔の思い出を歌う哀しくも感動的なナンバーです。演奏においては、1 曲を物語と捉えた全体の構成を意識することが大切です。メロディーの音域の変化、転調、伴奏形の変化などをヒントに、各セクションごとの意味合いをよく考えて組み立てていきましょう。また、メロディーをよく歌い、歌詞を思い浮かべながら、感情を表現する余裕を失わないようにしましょう。Eなど、メロディーの音域が低く、内声に現れる箇所では、音が濁らないよう注意してください。

19. 美女と野獣の対話 ～バレエ音楽「マ・メール・ロワ」より／M.ラヴェル

SMF あり ★★★

ラヴェルによる「マ・メール・ロワ」（フランス語で「マザー・グース」）の中の一曲です。この曲は「美女と野獣」の童話にちなんで作曲されており、子供好きだったラヴェルは童話の世界をやさしく表現しています。Aのメロディーは、お母さんが子供におとぎ話を語りかけるような、やさしく慈愛に満ちた音で弾きましょう。Bからは、不協和音的な音使いや低音の半音階的なフレーズが多いので、ペダルを使い過ぎないよう注意が必要です。全体に *ppp*〜*p* の部分が多いですが、すべてが弱々しく聴こえないよう、常に強弱のニュアンスを意識することを忘れないでください。

20. オルフェのサンバ／L.ボンファ

SMF あり ★★★

1959 年の映画『黒いオルフェ』挿入曲で、力強く、爽快なイメージのサンバです。曲頭は *Tempo Rubato* で始まります。ミュージックデータの 4＋1 拍のシンバルを合図に弾き始めましょう。Aでは、ミュージックデータの裏拍に入るシンバルをガイドに、大きな流れで拍を捉え、フレーズの始めと終わりでタイミングを合わせると良いでしょう。Bからは軽快なビートに乗って、最後まで勢いとスピード感を持って弾きます。右手は二声（メロディーと内声のバッキング）をしっかりと弾き分け、また、メロディーのアーティキュレーションにも気を配りましょう。